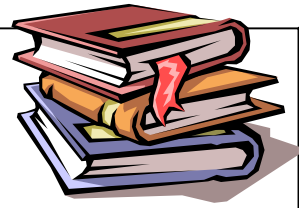


NEWS LETTER



NO.4 2000.9.20

にほんごひろば岡本

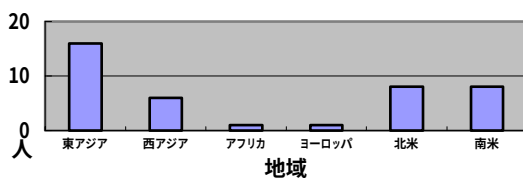
発行：にほんごひろば岡本（甲山国際科学館内）

〒658-0003 神戸市東灘区本山北町3-2-10

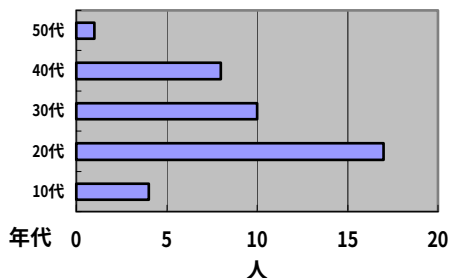
TEL：078-453-5941

秋の気配が、私達の気力を少しずつ回復させているようです。日々の支援活動を始めニューズレターの作成や交流会の準備、各種研修会への参加など、多くの支援者が意欲的に取り組んでいます。新しい仲間も増えました。9月20日現在、学習者40名で、内訳は下表の通りです。

学習者の地域別内訳



学習者の年代別内訳



にほんごひろば岡本第1回総会のご報告

6月25日（日）、48名中32名の出席をもって第1回総会が開かれました。

設立までの経過及び1999年度活動報告、決算報告

に続いて、2000年度活動方針案、予算案を審議、決議承認されました。その中で、「にほんごひろば岡本」の活動方針の3本柱を立てました。

1. 日本語学習支援活動

2. 児童、生徒への学習支援活動

3. 相談活動—学習者のストレス緩和に少しでも役立つように

学習者と支援者の出会いは、日本語学習ですが、孤立する外国人を生み出さないように、「私たちに今できる事は何か」を常に考えながら、地域社会での共生をめざした活動を続けていこうと確認しました。

また、今年度からはできるだけ多くの方に運営に関わっていただきたいとお願いしたところ、積極的に参加を表明してくださり、下記のとおり役員・運営委員が決定しました。

—みんなで作る「にほんごひろば岡本」—を合い言葉に、気負わず、気長に、楽しくやってみましょう。

2000年度役員・運営委員

代 表：西村佳子

副 代 表：下田美津子

会 計：佐古田幹子

会計監査：黒岩元晴、市川邦子

運営委員：長嶋昭親、天羽修江、松見和代、
福原香織、山本晃子、原田まどか、
一瀬由紀美、河崎涼子

支援者の紹介

現在、にほんごひろば岡本には 48 名の支援者が、ボランティア登録をしています。みなさんの横顔を紹介していきたいと考えていますが、初回は、今年度の運営委員の方を中心に自己紹介、他己紹介をします。

《自己紹介》

◆黒岩元晴

定年後、系列の研修会社で、インストラクターを勤めました。社員研修が主体で新入社員研修から管理者研修、定年前のライフプランセミナーまで、幅広く担当。約 5 年間、教育の仕事に携わり、教える喜びと同時に共に学ぶ喜びを感じました。日本語学習支援活動に参加し、学習者と異文化を共に学ぶ喜びが新しく加わりました。

若い皆様に遅れないよう、頑張りたいと思っています。

◆天羽修江

O 型、カニ座、魚崎在住。

支援を始めて 10 カ月余り経ち、少しずつ慣れてきました。質問されて自信がない時は、私の宿題になります。この宿題が増えないようにしたいところですが、なかなか思うようにいきません。得意ワザを作って自分らしい教え方ができたら、と考えています。

◆山本晃子

皆様、こんにちは。

神戸松蔭女子学院大学、日本語教育コース 4 年生、山本晃子です。

几帳面な A 型で、生活のリズムがほとんど崩れないことがその性格を証明していると思います。好きな食べ物は寿司と、スイカと、コーヒー。好きな色は青。趣味はバイオリンを弾くことで、神戸大学交響楽団に所属し、今は冬の定期演奏会を目標に、残暑厳しい中、一生懸命練習しています。皆様もよかったら聞きにいらしてくださいね。曲目はチャイコフスキー 4 番です。

さて、にほんごひろば岡本では元気に明るくをモットーに、週 2 回、月曜日と水曜日の午前中に、中国人の王 禹さんと勉強しています。最近の王さんは「日本語をどんどん話したい」と、気合い充分で、日本語をどんどん吸収していくので、びっくり

しています。また最近は、にほんごひろば岡本にも慣れてきたのか、よく笑うので一緒に勉強していてとても楽しいです。

また、NEWS LETTER の No.2 でも紹介しました「パリから来ました」の、黄 桂宏さんが、5 カ月ぶりに、「パリ」から帰ってきて、にほんごひろばでの勉強を再開しました。私と同じ大学の 2 年生の一瀬さんと私で、一緒に勉強することになり、私も努力家の黄さんに負けないように頑張りたいと思っています。皆様、どうぞよろしくお願い致します。

◆福原香織

こんにちは。「にほんごひろば」で学習支援をはじめて、はや半年。基礎の基礎知識(!)と、ただ熱意だけを持って、西村さんをはじめとする「ひろば」のみなさんのあたたかさと積極性、そして学習者の笑顔に支えられて、ここまでくることができましたが、日本語を「教える」そして「習得してもらう」ということの難しさ、奥の深さを感じている毎日です。

そんな中、私はこの夏、本当に幸運なことに(財)兵庫県国際交流協会の海外技術研修員夏期日本語講座のお手伝いをさせていただくことができ、そこでさまざまな国からの熱心な研修員の方々の学習する姿と、ベテランの先生がたの素晴らしい授業をたくさん見学することができました。また、同協会での留学生夏期集中講座では、現役大学生の日本語教師を目指すみなさんに交じって(若いエネルギーを吸い取ってきました!)教育実習という体験もさせていただきました。

世間では例年にない猛暑という中、そんなことには気づきもせず(主人の夕ご飯をつくるのを忘れたこともしばしば...)、緊張と集中の毎日でした...! 自分の未熟さ、何が足りないのか、それをどうすればいいのか、「理想」のようなものが、少しずつ見えてきたような気がします。本当に、かけがえのない体験でした。

この間、「ひろば」は少しお休みさせていただいたのですが、戻って学習者やボランティアのみなさんに再会したときは、正

直、すこしホッとしました。

「言葉」は本来、自分の気持ちを相手にわかってもらうために使われるものですから、その人の心を映すことになります。そんな素晴らしいことをお手伝いしますので、こちらも勉強し、準備に苦しむ(?)ことも当然です…と、言っていることはリッパなのですが…、とにかく、手を休めることなく頑張っていきたいと思っています。みなさん、これからもよろしくお願いします。

◆西村佳子

A 型 亥年 牡羊座 大阪生まれの大阪育ち、現在は西宮市在住。

同い年の夫、長女(22)、長男(19)と1歳半の姉弟(or 兄妹)猫2匹との生活をそれなりに楽しんでいる主婦です。

もう何年も前に、ふとしたきっかけから、某日本語教師養成講座を受講。ふだん何気なくつづけている日本語を一つの外国語として捉え直す作業に新鮮な驚きを感じ、ワクワク、ドキドキしながらすごした数カ月が、私と日本語教育との出会いです。

その後、子どもや老親の問題もひとつひとつとお通り通過。時間と場所ができたところで、「走り出してから考える」タイプの私は、十分な準備や心構えもないままに、「にほんごひろば岡本」を開いてしまったのです。長嶋先生(兵庫日本語ボランティアネットワーク代表)や下田先生(神戸松蔭女子学院大学)の強力なバックアップ、養成講座時代の仲間の支援など、多くの幸運に恵まれ、またボランティアの方々のご協力に助けられ、何とか今までやってこられました。本当に有り難く思っております。

ひまなオバサンの、ひとりよがりの活動にならないこと！私が「にほんごひろば岡本」を開く時、自分に課したオキテです。ゆめゆめ猪突猛進することのないように目をひかせておいてください。

尚、オキテ破りの際はどうかご存分に御仕置きをー。



《他己紹介》

◆松見和代さん

家庭では、中学生と高校生の男の子に毎日大量の食事を供給している松見さんは、スラッとした「京おんな」です。しかし、性格はまさに竹を割ったように、あっさりして、はっきりと物を言う人で、そんな彼女が私は好きです。

にほんごひろば岡本では、デリーさん(カナダ出身)と胡淑玲さん(中国出身)を担当しています。日本語の勉強がいつの間にか脱線して、唯のおしゃべりになっていると、彼女は言っていますが、学習者は休まず通って来ています。

先日、家事や色々なことで忙しい中、学習者の一人を自宅に招き、食事を振舞ったそうです。慣れない外国での一人暮らしでは、十分な食事を取っていないのではないかと心配してのことです。そんな彼女をみていると、ボランティアの本来の姿を見たようで、何か胸が暖かくなるのを感じます。

いろいろな国の人との出会いはもとより、様々なボランティアの人との出会いもまた、私たちの人生を豊かにしてくれます。

紹介者：佐古田幹子

◆佐古田幹子さん

佐古田さんと松見さんと三人揃えばガヤガヤと話しています。

日本語では佐古田さんにいつでも何を聞いても親切に教えて貰えるので、感謝しています。とてもエレガントな彼女ですが、ご主人思いで、料理も何でもこなし、意外と古典的で家庭的な面があります。そういう彼女といつか、飲んでみたいですね。

紹介者：市川邦子

◆市川邦子さん

「クニコサーン、クニコサーン」と、アメリカからやって来たモネさんに慕われている市川さん。

市川さんと呼ぶよりも、クニコサーンと呼ぶ方がピッタリの彼女は、本当に頼れるお母さんという感じです。「どうしたんや。何か心配なことあるのか」と、尋ねられたら、思わず、「実は…」と答えたいような彼女に、悩みのある人、困っている人は、一度相談してみても…。親身になって聞いて貰えますよ。

紹介者：松見和代

◆河崎涼子さん

河崎さんは、神戸松蔭女子学院大学日本語・日本語教育コースの2回生です。

彼女は時々、一人の世界に行ってしまったたり、気付けば私の方をじっと見つめていたりします(時に、大学の講義中であっても??)。最近、私も慣れっこなので、彼女の視線を感じると「もしかして、また見られてる?」と、予測してから彼女の方を見ます。そして、その予測が当たっていれば「やっぱりね!」と、小さな喜びを感じるようになりました。いろいろな意味で面白い存在です。??なんて書くと、本人に怒られそうなので止めておきます。(もう遅いですか!)

彼女はとても真面目で、また、着物の着付けが出来るということなので、これも自信の一つとして持ちながら、そのおもしろい彼女のカラーを生かした日本学習支援をしていくことだろうと思っています。

紹介者：一瀬由紀美

◆一瀬由紀美さん

私から見た一瀬さんは、一言で言うと“オネーサン”といった感じです。とても気さくでしっかりしていて(時々とばけたことも言いますが…)、自分の意志をはっきりと主張することのできる人です。逆にマイペース(とろい)人間の私はそんなしっかり者の一瀬さんにいつもいろいろな面で助けられています。ユーモアもあり、周りの人たちからもすごく信頼されている一瀬さんなので、これから運営委員をしていくなかでも、大きな力になってくれるのではないかと思います。

紹介者：原田まどか

◆原田まどかさん

私がこれから紹介するのは、原田まどかさんです。彼女は、神戸松蔭女子学院大学国文科日本語・日本語教育コースの2回生です。私が、彼女に初めて会ったのは大学に入学した昨年のことです。初対面からとても明るく、話しやすい人だな、という印象を受けました。会話をしているうちに彼女の地元が私の出身地と近いということがわかり、とても親近感を抱きました。

彼女の性格は、初めの印象どおり、明朗活発で、誰とでもすぐ打ち解けられる社交性に溢れています。バイトやボランティ

アにも積極的に取り組む責任感のある人です。あえて欠点を挙げるとするならば、少し心配性な所だと思います。しかしそれも言い換えれば、何事に対しても、慎重に行動できる人だともいえます。

これからもそのままでいて欲しいと思います。

紹介者：河崎涼子

第3回日本語教育ワークショップ レポート

2000年6月25日、にほんごひろば岡本に於いて、第3回日本語教育ワークショップが行われました。講師は神戸松蔭女子学院大学の下田美津子先生、参加者は20名でした。

今回のメインテーマは授受動詞「あげる・もらう・くれる・やる」で、その他前回の参加者の中からでた質問などについて、丁寧にご指導いただきました。

メインテーマの授受動詞については、とてもわかりやすく、要点をしばった説明で、私自身の頭の中もすっきりと整理され、非常によく理解できました。学習者にも説明がしやすくなりました。

他の参加者にも、「私は、まだこの課を教えたことがないので、すごく勉強になった。ぜひ、使ってみようと思う」と、喜んでいた方もありました。また、どの学習項目についても、一度に全てを教えるのではなく、必要なときに少しずつ教えることも必要で、既成のテキストをどう使うのか工夫することも大切だ、というお話もありました。

このワークショップは、教え方について、ご指導いただいたり、タスクを作ったり、また他の支援者の方とも交流が出来る、とても良い機会だと思います。たくさんの方にご参加いただき、より交流を深めていければいいなと思います。

今回のワークショップの詳しい内容は教授資料として別途作成中です。

(山本晃子)



《特別寄稿》

「にほんごひろば岡本」によせて

神戸松蔭女子学院大学助教授 下田 美津子



「にほんごひろば岡本」に関わるようになってほぼ1年が経とうとしています。
 '99年の7月に兵庫日本語ボランティアネットワーク代表の長嶋さんが研究室に訪ねて来られ、新しく日本語ボランティア教室を東灘区に立ち上げるにあたって協力してほしいとの要請がありました。ボランティアの主体として、地域が近い松蔭の日本語教育専攻の学生を考えているというお話でした。

日本語教室のボランティアを、ある程度日本語教育についての知識がある層に最初から限定することが日本語教室の安定的継続に欠かせないという考えについては実は賛否両論あります。日本語教育の知識のあるボランティアがかえって邪魔になっているという事例報告を研究会で聞いた記憶、逆に学生の実習の場に利用させてもらえるという利己的な期待、学生主体で地域のニーズにあうのかどうかという不安、わたしの頭の中をさまざまな小賢しい考えが駆け巡りました。が、その申し出に対するある種の戸惑いは、そのとき長嶋さんが言われた「KFCなどで松蔭の学生がボランティア活動を責任をもってしっかりやっているのを見てきたので、ぜひ参加してほしい」という一言でふっきました。学生に対する有り難い外部評価がわたしの背中を押しました。

立ち上げの過程で多文化共生センターの吉富さんにお会いできたのも大きな収穫でした。東灘区での他のボランティア日本語教室の具体的な事例、職業訓練としてのコンピューター教室の可能性、学童のポルトガル語などの母語保持教室の事例紹介などを通して、日本語教育の知識を振りかざしながら日本語を教え込むのではなく、日本語を＜地域で共生する＞ためのひとつの手段としてとらえるというあたりまえの視点を再認識できました。

学生たちには立ち上げから関わると、学習者を募るビラ配りからさせてもらえる、こんな貴重な経験はめったにできないよと大々的に宣伝しました。

最初に想定していた支援者は松蔭の日本語教育の学生を中心に、地域に住む多少は日本語教育の知識がある人、学習者は東灘区にある工場で働く日系ブラジル人と地域に住む外国人というものでしたが、ふたをあげてみると、ニューズレターでご存知の通り、支援者も外国人もさまざまでした。特に支援者は松蔭の学生に限っても国文科、英文科といういろいろですし、退職後の男性の参加などもあり最初の予測がはずれたことは、大変にうれしいことでした。

わたし自身がどのように関わっていけるのか、この1年は3か月に1度の割合で日本語教育ワークショップを開いていますが今も試行錯誤中です。

ワークショップの項目は、どんなことをしてほしいか事前にアンケートで聞いておいたトピックの中から選んでいます。不安を抱えたまま教えるというのはつらいことですから、できるだけ余裕を持って楽しくボランティアをするために日本語教科書の使い方の解説などが中心ですが、日本語教育の知識の一方的な伝授だけでなく、ボランティアの潜在能力を引き出すような参加型のワークショップにしたいと思っています。

ただ気をつけないといけないと思っていることが一つあります。母語の面白さに目覚め、より高度の日本語教育を目指そうとする人がでてくることは決して悪いことではないのですが、そのことがボランティア間に差別化

を引き起こし、よりうまく日本語を教えられる人が学習者を占領し、1対1ではなくクラス授業へと発展(?)していく。その結果、日本語教育の知識のないボランティアが萎縮してしまうようなことは、避けたいと思っています。

＜人を豊かにする知＞のはずが、＜人を疎外する知＞にならるように、ボランティアひとりひとりの固有の経験、日本語教育の知識と多文化共生能力そのどれもが開発され、開花するようなワークショップができればどんなにいいでしょう。これは2年目のわたしの課題にしておきます。

日本語教育というただひとつの物差しで計るのでなく「にほんごひろば岡本」がさまざまな物差し〔能力〕をもったボランティアのための「ひろば」でもあって欲しいと思うのです。現在、学齢期の学童への学習支援、ストレスを抱えた主婦の学習者へのおしゃべり訪問など活動が多様化してきていますが、これからもっと多方面に拡散していくことを願っています。

最後に、ボランティア組織にとって優秀なコーディネーターの存在は欠かせません。西村さんと佐古田さんという絶妙なコンビが運営してくださるおかげで、どんどん人が通過していだけというタイプの教室ではないことは本当に有り難いことです。特に学生のボランティアには「ひろば」が良き人間教育の場として機能していることを心から感謝したいと思います。

学習者と共に共生社会を創出しよう日本語学習支援活動を！！

兵庫日本語ボランティアネットワーク代表： 長嶋 昭親



民間の日本語学習支援グループで日本語を学んでいる人たちの多くは、日系南米人とその子どもたち、インドシナ難民とその家族、中国帰国者とその家族、留学生の家族です。その中でも、日系南米人の置かれた状況はきびしく、日本社会からも「出稼ぎ労働者」としてみられ、多くの人が健康保険はもとより、雇用保険、年金などもかけない（無権利状態）でただ寝るための住居と1日12時間近く働く職場を往復するだけの生活を強いられています。会社とスーパーで用が足せるだけの日本語が理解できれば、それ以上の日本語は必要がないと考えている人も多くいます。そんな閉ざされた空間に押し

込められたまま、この不況の日本経済の下支えを黙々としています。そんな人たちのごく一部が、日本語の学習、日本語学習支援者との交流を求めて、民間の日本語学習支援グループを訪ねてくるのです。

日本語学習者と日本語学習支援者は大きくて厚い壁の日本社会の窓口、あるいは戸口にいて、その「うち」と「そと」との境界線上で週1～2回1時間半～2時間を共にします。この貴重な出会いの場と時間を大切に、学習者も学習支援者も学ぶ努力（日本社会及び「外国」人の置かれた立場の認識）をするべきです。そして、ともに高く厚い壁（現在の共生社会でない社会）をなくす（学習者が地域社会の市民として認められ、地域社会に参加できる）ための方策（日本語学習支援活動もその道筋の一つなのですが）を考えあう必要があります。学習者自身が日本語学習支援グループの運営や企画に参加することもその方策の一つでしょう。そして共に行動する道筋をそれぞれの立場から出し合い、それぞれの持ち分で活動していくこと（例えば、交流会をするとき、役割分担をしてその役割を共に果たすこと＝持ち寄り料理などもその一つだと思います）ができるようになればと思います。共に頑張りましょう。

学習者の紹介

◆ニマル・D・ベッティアラッチさん (男性) スリランカ出身

「趣味は仕事です」

ニマルさんは4月にアジア防災センターの연구원として6カ月の研修に参加のため来日。42歳、2歳の女兒の父親ですが、日本へは単身赴任です。

短期間の滞在のため日常会話を中心に学びたいとの要望で、ローマ字だけの日本語学習となりました。

最初は、ローマ字の英語読みで ee がどうしても i: となる等の困難がありましたが、現在はひらがな、カタカナにも若干興味が出てきたようです。

スリランカ (旧セイロン) はインド半島の南東にある紅茶とスターサファイアで有名な美しい島です。南方仏教の中心地でニマルさんも仏教徒で梵語 (サンスクリット語) も分かるとのことで、お経の一節を唱えてみましたが、音は似ているがそれは日本語と笑われ通じませんでした。主要言語はシンハラ語ですが、英語が大変上手なので、時々英会話教室となります。ニマルさんは教師の経験もあり、日本語の曖昧な時制の問題など時々鋭い質問があります。

さて、ニマルさんのスリランカでの勤務先は Department of Social Service で学生時代から参加している社会奉仕活動が趣味だとのこと。 (黒岩元晴)



◆ウテ・ケックさん (女性) ドイツ出身

第一印象：さわやかな笑顔

出身地：自然が豊

かな黒い森 (シュバルツバルト) の近く

趣味：①旅行 アジア各地を旅行し日本へ。次は韓国に住みたいとか。日本では特にお祭りが大好きで、葵祭り、大阪北野天満宮の祭り、奈良などを火、水曜日のお休みには走り回っています。次は岸和田のだんじり祭りを楽しみにしているそうです。

②写真 日本の中の日本らしい風景、昔と今がうまくマッチし

た風景など数多くの写真を写しては学習時間に見せてくれます。

③読書 京都の丸善でドイツ語版の本を手に入れるそうで、会うたびに違う本を読んでいるのにはびっくり。川端康成、三島由紀夫、大江健三郎、安部公房、宮沢賢治などなど。

「どうして?」「むずかしいけどおもしろい」が口癖のウテさんはドイツ語の先生なので、とても教わり上手です。(天羽修江)

◆ミカ・ローズさん (女性) カナダ出身

カナダはオタワ出身のミカ・ローズさんは、色白で、長身の女性です。子ども好きのためか、イーオン英会話スクールでは、楽しんで、熱心に子どもたちを教えています。

日本語のほうは、ひらがな、カタカナをあつという間に覚え、ノートにはそれらを使って書いています。また、最近お習字のレッスンも始め、漢字にも興味が出てきたようです。



京都の祇園祭りには日本で買った浴衣を着せて貰って行くと、興奮して話していました。

でも、下駄はチョッと履くのに自信がなかったようで、サンダルで行ったそうです。

どちらかと言うと地味で、おとなしいタイプの人ですが、真面目で、何事にもマイペースで取り組む彼女を見てると、教えられることがたくさんあります。

私も週に一度ですが、彼女に会えるのをとても楽しみにしています。(佐古田幹子)

◆モネ・カスターネーロさん (男性) アメリカ出身



LA 育ちのスペイン系アメリカ人です。年は32歳で、最近、3年間付き合

っていた彼女と別れ、今は淋しい生活(?) だそうです。

英会話のイーオンの先生ですが、本当は空手がとても好きで、

合気柔術を本格的に習っています。

日本語の方は仕事が忙しいので、あまり勉強する時間がなく、難しいそうですが、遅刻もせず、休まず来てくれるので、私も楽しんで教えられる。でも、もう少し宿題してきてよ。

(市川邦子)

◆ゴンザレスさん (男性) ペルー出身

ペルーから来られたゴンザレスさんは、たまにスペイン語をおしえてくれたり、「テストが



んばって」と声をかけてくれたりと、とてもやさしくて、ステキなお父さんのような方です。

何より勉強熱心で、私もゴンザレスさんを見習って一生懸命勉強しなければ、といつも思っています。私は日本語を教えるのは今回が初めてですが、私の下手くそな説明を、とても真剣に聞いてくれています。今、ひらがな、カタカナ、会話を学習中で、覚えることも多くて大変だと思いますが、しっかり勉強して、お互いいろいろと身に付けていけたらと思っています。

(原田まどか)

◆陳 錦文さん (女性) 中国出身

陳 錦文さんは、この春から「にほんごひろば」にやってきた小学校6年生です。始めの頃は、お母さんに付き添われて恥ずかしそうに、覚えたての日本語で「はじめまして。陳 錦文と申します。どうぞよろしくお願い致します」とお母さんから教わった通りの挨拶をするのが精一杯に見えたのに、今や、彼女の日本語でのおしゃべりは、始まると止められないくらいです。また、



教室の中で“逆立ち”までしてくれるおてんば…(?)元気づけです。

たった5か月の間で日本というものを自分の生活の中に上手

に取り入れることのできる、心と体の柔軟性に感心しています。

これからもこの賢い彼女が、どんどん日本語だけではなく、日本そのものを吸収していく姿を見るのを楽しみにしています。

(高橋さき)

トピック

ニューズレター№2 で紹介したロサリタさんに女の子が生ま



れました。名前はベラちゃんです。7カ月の早産のため、赤ちゃんはしばらく入院していましたが、9月11日に無事退院しま

した。夫のバンバンさんやインドネシアから来日されているご両親にも温かく見守られ、すくすく育っています。忙しい育児の合間を縫って、ひろばで学習しています。その上達ぶりには、看護婦さん達も驚いているとか。二十歳の若さながら、すっかりお母さんの貫録が出てきたロサリタさん、おめでとうございます。

◆バーベキュー・パーティーへのお誘い

来る10月1日(日)「しあわせの村デイキャンプ場」(神戸市北区)で学習者との交流会を行います。家族などの参加もOK。

◆第4回日本語教育ワークショップ

日時 10月15日(日) 10:00~12:00

場所 にほんごひろば岡本(甲山国際文科科学館)

講師 下田美津子先生(神戸松蔭女子学院大学)

内容「中級学習者への対応」を中心に行う予定です。是非ご参加ください。

編集後記

今回の5・6頁のイラストは、福原香織さんにお願ひしました。とてもステキで、ありがとうございました。これからも、みなさまのご投稿お待ちしております。(編集M・I)